

## 令和元年度 学力調査(5年生・6年生)ならびに体力調査の結果のお知らせ

今年度の学力調査ならびに体力調査の結果をお知らせいたします。今後は、調査結果をもとに、本校児童の学習や体力の状況に応じた授業や取組を実施していきます。以下は、学力調査、体力調査の結果ならびに分析、改善策です。

### ❖6年生 全国学力・学習状況調査(4月18日実施)

※数値は正答率:%を表しています。

国 語	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語全体
31年度 田柄小	<b>73.1</b>	<b>52.3</b>	<b>73.5</b>	<b>54.0</b>	<b>62.0</b>
東京都平均	73.1	55.4	83.0	55.7	65.0
全国平均	72.3	54.5	81.7	53.5	63.8

算 数	数と計算	量と測定	図 形	数量関係	算数全体
31年度 田柄小	<b>62.8</b>	<b>52.3</b>	<b>75.8</b>	<b>70.0</b>	<b>66.0</b>
東京都平均	66.7	57.5	79.0	72.2	70.0
全国平均	63.2	52.9	76.7	68.3	66.6

### <各教科の結果考察と改善策>

#### 【国 語】

「話すこと・聞くこと」や「書くこと」、および「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題においては、おおむね都平均と全国平均と変わらない結果でした。「読むこと」の問題においては、都・全国平均ともに差が大きいことが分かります。「読むこと」では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえたり、自分の考えを明確にしながらかんだりすることが苦手なようです。日頃の学習から、自分の知識や経験、考えなどと関係付けて考えさせるとともに、自分の考えを言語化させて友達と考えを比較したり、文章の中から必要な情報を取捨選択したりすることができる力を身に付けさせていきます。

#### 【算 数】

全体的に都平均を下回りました。「数と計算」、「量と測定」の問題については特に正答率が低いことが分かります。これは、数量に着目して、計算を確実に行うことや計算の順序を考え、能率的に行うために工夫すること、また、図形の性質や構成要素に着目して、様々な図形の特徴を正しく認識していないことが考えられます。

基本的な計算に対して、正確に処理できるように取り組ませるとともに、計算の順序についてのきまりを理解できるように、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにしていきます。また、図形についての見方や感覚を豊かにすると共に、日常生活の中にある図形にも興味・関心をもたせていきます。

## ◆5年生 東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査(7月4日実施)

※数値は正答率:%を表しています。網掛けの部分は都の平均値を上回った項目です。

国語	話す・聞く	書く	言語	読む	国語全体
31年度 田柄小	<b>64.1</b>	<b>68.5</b>	<b>62.5</b>	<b>66.4</b>	<b>64.9</b>
東京都平均	65.3	70.4	67.4	67.4	67.6
社会	思考・判断・表現	技能	知識・理解	読む	社会全体
31年度 田柄小	<b>61.3</b>	<b>61.1</b>	<b>77.2</b>		<b>64.8</b>
東京都平均	63.5	66.8	70.6		66.7
算数	思考・判断・表現	技能	知識・理解	読む	算数全体
31年度 田柄小	<b>46.8</b>	<b>64.6</b>	<b>69.6</b>		<b>60.3</b>
東京都平均	47.2	65.0	67.6		60.1
理科	思考・判断・表現	技能	知識・理解	読む	理科全体
31年度 田柄小	<b>48.6</b>	<b>69.2</b>	<b>53.3</b>		<b>54.9</b>
東京都平均	53.0	67.0	55.0		56.8

### <各教科の結果考察と改善策>

#### 【国語】

「話す・聞く」や「書く」、「読む」の問題では、都の平均とおおむね変わりませんが、「知識・理解」の問題については、都の平均を下回りました。これは、文の中における主語と述語の関係や、修飾と修飾語の関係についての正答率が低いためです。日常の学習において、自分の書いた文章を推敲するとき意識させ、様々な文に触れていく中で、文の構成を理解することができるようにする指導の充実を図っていきます。

#### 【社会】

「思考・判断・表現」や「技能」を問う問題では都の平均を下回り、「知識・理解」の問題では、都の平均を大きく上回りました。これは、社会的事象の基本的な知識・理解は身に付いているものの、資料から読み取ったことを根拠として考えたり、複数の資料から調べるために必要な資料を選んだりする問題の正答率が低いためです。これから、児童自ら課題に気づき、問題解決に必要な情報を収集して(グラフや表、写真、図など)、読み取った情報に沿ってまとめる活動を行っていきます。

#### 【算数】

「思考・判断・表現」や「技能」を問う問題では、都の平均とおおむね変わりませんが、「知識・理解」の問題については、都の平均を上回りました。これは、数量や図形についての知識・理解は身に付いていますが、正確に計算したり、公式を活用して問題を解決したりする問題の正答率が低いためです。日常の学習において、基本的な計算を正確に処理できるようにくり返し取り組ませるとともに、計算の仕方を筋道立てて説明できる力を身に付けさせていきます。また、既習事項を活用する力が身に付くように、応用問題に取り組ませています。

#### 【理科】

「思考・判断・表現」や「知識・理解」を問う問題では、都の平均を下回りましたが、「技能」の問題については、都の平均を上回りました。これは、観察・実験の技能は身に付いているものの、科学的な思考・表現や自然事象についての知識・理解の問題の正答率が低いためです。授業において、自然の事物・現象を比較し問題を見いだす力を付けるとともに、実感を伴った理解を図る活動を充実させていきます。そのために、学習した内容を自然や生活との関わりの中で見直す活動や、科学的な言葉を用いて考えたり説明したりする活動を取り入れていきます。

